

第6回自然と親しむ子ども山登り教室

★説明会(4月1日)

参加者 子ども1名
スタッフ2名、会員(健常者)1名

「第6回自然と親しむ子ども山登り教室」の説明会を八千代市東南公民館で実施した。

今日出席したお子さんは、すでに小学校入学前から当法人の未成年会員として、多くの

山に参加しているS.K君だったため、気象などの説明は簡単に済ませ、昨年の「自然と親しむ子ども山登り教室」や、岩登りのビデオを見てもらった。

小学校4年生のS、K君なので、ゲレンデでの岩登りなどは、慎重に行う必要があるが、将来の可能性に期待できるものがたくさんあった。

★生藤山(4月22日)

参加者 子ども5名
スタッフ6名
別働隊 スタッフ1名
会員(子ども3名、健常者6名)

フは7名、別働隊の大人参加者は6名となった。



第6回自然と親しむ子ども山登り教室は、小学4年生以上の子どもの参加が少ないため、理事会とスタッフの了解のもと、小学1年生以上に拡大して実施した。子どもの参加は、本隊としての参加が5名(中1、小5、小4、小2、小1各1名ずつ)の参加となり、別働隊に3名(小2二人、小1一人)の参加となった。スタッ

天氣が心配されたが、最後まで本降りにはならず、子どもたちは元気さを存分に発揮していた。山頂直下や山腹をトラバースするところは要注意だが、危険箇所の少ない歩きやすいコースだった。

桜で有名な山だが、甘草水付近の桜はまだこれからだった。しかし、少し低いところには満開の桜もあり、見頃は1週間ほど先ではないだろうか。足下には、タチツボスミシ、

ナガバノスミレサイシン、ヒナスミレ、ニリンソウが咲いていた。

今回は、最後の立山まで登る子どもは少ないが、日帰りの登山を中心に山の楽しさを感じて欲しいと思います。



《参加者の感想》

◎このところ週末になると雨で中止となるケースが続き今回も案じられたが、どうにか子供たちの願いが通じたようである。登山道は三国峠から生藤山に至る急坂を除いて比較的なだらかな緩斜面ということもあったが、どちらかと云うと子供たちの屈託のないおしゃべりと快活さに煽られてあっと云う間の道程であった。富士山は望めなかったが、帰路の桜並木には下界とはまた違った美しさを味わった。「子供たちの皆、また一緒に登ろうね～」
記：ナスビのM、Yさん



◎子供たちはひと月前からずっと楽しみでこの日を指折り数えてました。

天気が不安でしたが、子供たちは行く気満々。その思いがかなってよかったです。

Yが登り途中、リュックサックを投げ出してしまい、それを取りに戻ろうとしたらK君が体の前にYのリュックサックをかけて登ってきました。K君もそんな経験があったのでしょうか。ほほえましくて、あたたかい気持ちになりました。

班が違ってあまり様子は見えませんでしたがあとからゆっくり歩いてくるわたしを上から発見し「がんばれ～」と声をかけてくれる。かわいい孫たちです。

子供たちは最初から最後まで全身全霊で好奇心まるだし、笑顔いっぱい。その歩き方は、とてもいきいきしていました。近所の公園で遊んでいる子供たちとは違ってすごく大人びて見えます。

子供たちは自然の中ではどんなことを感じたのでしょうか。なにが楽しかった？と聞くと昼ごはんをみんなで食べたことといいます。そういうもんなんですね。子供の純粋さを見習いたいものです。

高尾駅でたくさんの人とお別れするのもとまどった顔でみんなはどこに帰るの？なんて同じ電車で帰らないの？と聞いて、さびしそうでした。そんな子供たちもそのうちに二人仲良く頭をささえながら眠ってしまいました。

家の近くに着いたら駆け足でパパやママのもとに帰っていきました。YもKも人が好き、人とかかわることが大好き。みんなと登ればつらさもどこか飛んでいってしまうのでしょうか。

武蔵浦和駅でおられるS君と握手してまた会おうねという言葉が印象的でした。電車が動きだし、S君が走る電車をおいかけて手を振ってくれました。YもKも窓にはりついて手をふっていました。

またお山にいきたい、その言葉を聞いて、
ばあちゃんは大満足の日でした。

一緒にあるいてくれた大人の皆様、たくさんのお友達に感謝します。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。
記：S.Kさん

★丸山(5月20日)

参加者 子ども5名
スタッフ5名
別働隊 スタッフ1名
会員(子ども3名、健常者6名)

このところ、天候が不安定で、当日の天気心配されたが、雲も薄く日が降り注ぐ良い天気に恵まれた。

芦ヶ久保駅から舗装道路を歩くが、これがかなりの急坂で、先頭と後方の差が開いた。気温も高く、子どもたちは半袖で歩いている。しかし、木陰に入ると風が気持ちよく、とてもさわやかだ。



山道に入ると、チゴユリやミツバツチグリ、マムシグサなどが、そこかしこに咲いている。

コースタイム

井戸バス停(10:00) … 大カツラ(10:30-10:40)…三国山(11:45-12:25)…生藤山(12:30-12:35) … 甘草水(13:00-13:10)…鎌沢入口バス停(14:15)

日向山分岐を過ぎると、県民の森となり、林道を横切って登っていく。ジュウニヒトエやギンリョウソウ、フデリンドウも咲いていた。新緑やツツジが美しい丸山山頂に12時過ぎに到着する。



子どもたちは、展望台に上がったり、思い思いに遊んでいる。展望台からは、武甲山や大持山、小持山、武川岳、二子山などがよく見え、堂平山方面もよく見えた。



下りは心配していたとおり、子どもたちがどんどん先を急ぐ。「待っている!」と言っても聞かないため、リーダー格のS. K君を持ってきたロープにつないで、私と一緒に歩いてもら

うことにする。さすがに、効果があって、先頭を歩くM、Iさんの前に出る子はいなくなった。その後、一緒につないで欲しいという子が増え、大野峠からは中1のK、I君をのぞいて、子どもたち全員が繋ぎ合って下る。みんなから「押している」と言われて、K、T君がロープから外れたが、みんな行儀良く歩いていた。

みんなが一緒に歩ける利点はあるが、歩く速度が遅くなることや子どもたちの自由を奪っているのでは、傾斜が緩くなったところで、ロープを外して歩くことにする。子どもたちは、水を得た魚のように元気に歩いていた。

芦ヶ久保駅には、ほぼ予定どおりの時間に着き、電車に乗り込んだ。

《参加者の感想》

今回は子供登山2回目でしたので子供たちはすっかり慣れた様子でわたしの元を離れることを望んでいるように感じました。歩いているときも昼食のときも・・・以前は「こっちにきて」と何度も言ってわたしを誘ってきましたが今回はすっかり離れて歩いてました。

さびしい気持ちはまったくないとはいいませんが子供たちの自立がうれしかったです。昼食くらいは一緒に食べるのかと思いきや、少し離れていたA Iさんのところにいて、各々自由に昼食を楽しんでいました。

山中もいろんなことに興味深々、水が流れて

いること、ありがたくさんいること、花が咲いていること、どれもこれも子供たちにとっては遊びの道具になっていきます。自然の中で子供たちは空を飛ぶ鳥のよう。見てるだけで愉快になります。

下山にはいり、ABさんの名案でロープでつながれた子供たちには笑ってしまいました。つながって走ることもできず、つながれた仲間と歩調を合わせなければならぬのでおとなしくなり、これで安心。つながれて、はじめは歩幅が合わず、こわい、早いといってたが慣れるのも早くてそのうちにちゃんとみんなで行進？してました。

来年は子供たちだけで参加できるかもしれない・・・と期待してます。家に帰って父親が子供たちをみていった言葉「なんだか目がきりりとしてる」そういわれた子供たちはにやっと笑ってました。日焼けした子供たちのあの笑顔、頼もしく感じます。

心配してもらいながら、声をかけてもらいながら、一日を楽しくすごせました。みなさんの思いやりに感謝します。ありがとうございました。 記 S.Kさん

コースタイム

芦ヶ久保駅(9:20)・・・日向山分岐(11:00)・・・丸山(12:10-13:00)・・・大野峠(13:30-13:40)・・・芦ヶ久保駅(15:40)

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第1回生藤山）提出順

- またたくさんの人にあえてよかった。
- 大きなおにいちゃんが手をつないであるいてくれた。
- みんなと一緒に歩いてよかった。 ○ Iさんがまた竹鉄砲をつくってくれた。
- K（妹）と一緒にいけてよかった。
- 山でたくさんお菓子をもらった。Y、食べ過ぎちゃった。
- 途中の駅でお別れするのがさびしかった。 ○ またお山に行きたい。

Y.K君

- ママが雨ふるといったから心配だったけどお山にいけてよかった。
- 雨がふったけどカッパがあったからぬれなかった。
- みんながやさしくしてくれた。
- A Iさんが笹船を作ってくれた、水の上に泳がしたかった。
- Kもまたお山に行くんだ～ K.Kさん

きつかったです。たのしかったです。ちょっときつかったけどたのしかったです。
のぼるのがきつかったです。もういっかいいきたいです。 K.M君

今回は、生藤山への山登りでした。僕にとってはハイキングほどで楽に登り切りました。でも、前日まで部活の練習で、歩くのもつらいほどの筋肉痛でした。しかし、父親から「登って体を動かした方が早く治るから登ってこい！」と説得させられ、しぶしぶ登ることにしました。去年は僕と妹の2人だけでしたが、今回からは1年生からの参加が可能になり、にぎやかになりました。今までは、僕が中学生のお兄さん達に面倒を見てもらっていたのが、もう面倒を見る側になっていました。本当に時が過ぎるのが早いなあと思いました。

今回、1、2年生達の面倒を見ているうちに小2のYK君と仲良くなって楽しく登れました。そしていつの間にか、筋肉痛も治っていました！ やっぱり登って良かったです。 K.I君

今回の生藤山は、行く前は低い山だと思い、よゆうにかまえていました。でも、実際に登ってみたら、予想以上に高かったです。山の途中には、桜が満開で、とてもきれいでした。他にもたくさん名前が知らない花を見ましたが、これから花の名前も覚えていきたいと思いました。

「やっと頂上に着いた！」と思ったら三国山の頂上でした。地図を見ると、もう少し上でした。ところが、その登りがすごく急で、だん差が高く大変でした。

登りきった時は、ものすごくつかれました。次の山は、もう少し、がんばっていきたくいです。 S.Iさん

こだまが大きな声でかえってよかった。スタッフはけっこうおもしろかった。しょうとう山ってさいしょは、しらなかったけど、と山きょうしつにはいって始めてした。ちょう上はいいながめで、ちょう上の下でごはんをたべるとおいしかった。なにかしらない虫がいたし、やごもありじごくもあった。 H.S君

山行報告

★鈴鹿山脈(3月10日～12日)

参加者 会員(障害者1名、健常者4名)

☆3月10日

夜行バスで名古屋駅に着き、Uさんと合流する。四日市に向かう予定の電車まで時間があるので、私はなつかしい人たちに会う時間をいただく。

新幹線で来たKさんと合流し、名古屋駅を後に、湯の山温泉に向かう。桑名の伊勢朝日駅付近で、かつて住んでいた寮を探そうとしたが、様子もかなり変わっていたようで、見つかることができなかった。

三交湯の山温泉バス停で昼食を取るが、風があり、寒くてゆっくりできなかつた。名古屋周辺の東海道を歩いてきたMさんと合流し、私のかつての山仲間だったMuさんとFさんとも合流して、藤内小屋に向けて出発する。



北谷を登る

Fさんたちと昔話をしながら、Muさんの先導で歩いていく。北谷に入って、少ししたところに滝があり、そこを巻くように左側に進むが、ここが岩のバンド状になっていて、一部狭いところがあり、ここの通過が一番厳しい箇所だった。MuさんやFさんの助けを借り、無事に通過することができた。

そこを過ぎると、左から来る林道に出会う。それ以降は、丸太の橋が何ヶ所かあったが、それほど危険なところはなく、午後2時前に藤内小屋に着いた。

藤内小屋は、3年ほど前の上流の沢からの大規模な崩落で、後の小屋が壊れ、全く使えない状態になり、本館の小屋も、小屋ごと前に数十

センチ押し出されたい。しかし、小屋の女将さんがとても感じの良い方で、気持ちよく迎えてくださった。別館は、私たちだけの泊まりなので、自由に使って良いという。あの頃にタイムスリップしたようだねという感覚で、なつかしい話に花が咲き、ついアルコールメーターがオーバーしてしまい、夕食の後はすぐに眠りについてしまったようだ。

☆3月11日

夜半に起きると、月が煌々と照っていて、ヘッドランプを使う必要がなく、自分の頭だけで十分だった。四日市の夜景もすばらしい。

朝、仕事があるMuさんが6時前に出発したので、それを見送る。久しぶりの御在所なので、藤内壁をよく見ておこうと遠くの壁を見上げるMuさんが印象的だった。

朝食後は、自由に飲んで良いというコーヒーをいただき、リッチな気分で小屋を出発する。小屋の女将さんが、ここから少し上までが、26年前と最も変わったところだよと教えてくれる。午後から仕事のFさんは、行けるところまで一緒に行ってくれるという。



藤内小屋の前で

樹林帯の中だった登山道は大きく変わり、見晴が良くなっている。オーバーハングした大きな石を見て、名クライマーのFさんは、血が騒いだようで、岩に近づきルートを確認している。

スズメバチに10匹刺されたなつかしい兎の耳の岩塔は、今も健在だ。27年ほど前、人工登攀ばかりしていなくて、ハードなフリーク

ライミングに目覚めよという意味で命名された「ウェイクアップ」というルートを目で追う。短パンで登ったなつかしいルートだ。

登山道は、兎の耳を過ぎたところから、岩場を上がるため、鎖が付けられている。ここも新しいコースになったようだ。水場を過ぎ、さらに登ったところにある藤内壁出合で休憩する。昔、一晩過ごした岩小屋のような岩も健在だった。休憩中にFさんと二人で藤内壁のテスト岩まで行ってみる。ところどころ凍っていて、注意が必要だった。



一の壁がよく見え、宇宙遊泳と名付けられたルートを持つ一の壁フランケも当時と変わらない姿だった。中尾根バットレスもよく見え、藤内滝にはもう水が流れていた。前尾根P7の取り付けも良く分かり、ただただなつかしい想いでいっぱいだった。

藤内壁の出合まで戻り、Fさんとお別れする。またいつか会える日を期待して、Fさんと分かれて登りはじめる。

ここから先は、昔と変わらない道のような。登るにつれて雪が現れ始めた。そして、上の方には樹氷の木々が見えてきて、期待が高まる。ところどころに美しいつららがある。

登っていくと、樹氷の中に入り始める。さらに登ると、国見峠に到着する。この付近も一面の樹氷の中で、逆光にキラキラ輝き、とにかく美しい。御在所岳の山頂方面も見えている。

この世のものと思えないほど美しい樹氷の中を緩やかに登っていく。車道に出ると、そこ

は山上公園だ。近くの国見岳から釈迦ヶ岳、竜ヶ岳、そして明日登る予定の藤原岳も見えている。今日は、天気が良く、すばらしい展望だ。



山上のスキー場は、樹氷が満開の桜のように見える。人工降雪の雪が多いと思うが、昨年よりかなり多いらしい。車道を歩いていくと、鎌ヶ岳も見えてきた。ピラミダルな山容は、鈴鹿の槍ヶ岳といわれるようだ。



御在所岳の山頂に到着し、集合写真を撮る。雨乞岳がよく見え、展望もすばらしいが、周囲の樹氷はさらにすばらしい。望湖台と呼ばれるピークに行くと、さらに雨乞岳がよく見える。琵琶湖は、わずかに見えていたようだ。その向こうに見える白い山は、比良山地だったのではないだろうか？

御在所岳の次は武平峠に下り、鎌ヶ岳を目指す。雪が多いため、スパッツを付ける。一部、分かりにくい箇所があったが、どんどん下り、12時過ぎに武平峠に到着する。

Mさんは、ここで待っているというので、4人で鎌ヶ岳を目指して登りはじめる。雪の壁の

ようなところがあったり、岩場もあって、やはり鈴鹿の槍ヶ岳と呼ばれるだけのことはある。ふり返ると御在所岳がよく見えていたが、天気は悪化してきているようだ。



樹氷と鎌ヶ岳

最後のがれ場まじりの岩場を登ると、鎌ヶ岳の山頂に飛び出した。空はどんより曇ってきて、かなり寒い。写真を撮り、下りに備えて、ロープを繋ぎあう。鎖やロープを頼りに慎重に下っていく。山頂直下の難所を過ぎると、取りあえず一安心だ。その後の岩場なども無事に通過し、Mさんの待つ武平峠に到着する。Kさんは、入会当初は下りが苦手だったが、今回は本当に上達したなと感じた。



鎌ヶ岳山頂にて

武平峠から鈴鹿スカイラインに下り、しばらく登山道を歩いたが、途中から車道を歩くことにする。通行止めとなっているので、車の心配をしなくてすむので、コーナーリングも最短コースを取る。

一箇所だけ道を間違いそうになったが、引き返して湯の山温泉に向かう。車道に出た頃からちらちら降り始めた雪は、湯の山温泉では、雨

に変わっていた。バス停に着くと、最終バスが終わっていたが、名古屋までの直行バスがあり、湯の山温泉駅まで乗せてもらえないかお願いしたら、保養所前までなら乗せられるということだったので、そのバスに乗せてもらって保養所前から湯の山温泉駅まで歩く。

電車で四日市まで行き、食事をしてホテルで泊まる。この頃には、雨は本降りになっていた。

☆3月12日

翌朝は、雪で空けた。天気予報は、朝方は雪で、午後から晴れることになっているので、早めに回復することを期待して電車で西藤原駅に向かう。電車の中から見える景色はすっかり雪景色となり、本降りの雪となっている。時折雪が止むので期待するが、すぐに本降りとなる。そんな繰り返しの天気だ。

SLが止まっている西藤原駅から歩きはじめる。神武神社から登山道に入り、順調に登っていく。標識は2合目からあり、順調に登っていることが分かる。天気も次第に良くなり、青空が広がって、良い天気になってきた。ただ、山頂方面は雲に被われている。



吹雪の中、藤原岳を目指す

良い天気になったと思ったら、また吹雪のようになる繰り返しが続く。しかし、登るほど、天気は悪くなり、雪も多くなってきた。昨夜から30センチ近く積もったのだろうか？ 10日ほど前に福寿草を見つけたという報告をインターネットで見たが、今日は全てが積雪に被われている。完全に冬山に逆戻りだ。

9合目を過ぎ、藤原山荘までもう少しかったが、天気も悪く、疲れた人も出てきたので、引き返すことにする。下りが苦手な人には軽アイゼンを付けてもらい、下りはじめる。

時折晴れ間が見えて日が差すと、木の枝に付いた雪が花のように美しい。しかし、晴れたと思うとまた雪が降り出すことの繰り返し。それでも、順調に神武神社の下にある休憩所に到着する。ここで、靴を洗い、トイレを済ませる。

予定よりかなり早く西藤原駅に着いたので、帰りの時間に余裕ができた。みんなで名古屋駅できしめんを食べて帰路に就く。三重県側は雪だったが、名古屋はよい天気だった。

期待したフクジュソウやセツブンソウは、雪に埋もれてしまって全く見られなかったが、御在所岳で見た樹氷は素晴らしい美しさで私たちを迎えてくれた。私にとっては、26年ぶり

★三轟山(3月18日)

参加者 会員(障害者1名、健常者9名)
会員外(健常者1名)

昨日の雨が上がり、上空の雲はそれほど厚くなかった。午後から降水確率50%だが、何とか帰りの駅に着くまで持って欲しいと願って、浅草から電車に乗る。昨日、看板が付け替えられたばかりの「とうきょうスカイツリー駅」を車窓から見る。駅近くの社内からでは、近すぎてスカイツリーの下部しか見えない。そんな話をしながら、電車に揺られ、板倉東洋大前駅で乗り換え、静和駅で下車する。昨年6月以来となるSさんが、一番後の車両から手を振って駆けってくる。急に体を動かしたら危ないよと静止するが、急ぎ足で歩いてくる。

駅の外で自己紹介をして、車道を歩きはじめる。駅から東口まで7kmくらいあるとのこと。計画では30分で東口まで行くことになって

の鈴鹿の山と山仲間、みなさんのおかげで、すばらしい思い出がまた一つ増えました。お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

コースタイム

3/10 三交湯の山温泉(12:15)…藤内小屋(13:45)

3/11 藤内小屋(7:30)…藤内壁出合(8:10-8:30)…国見峠(9:30-9:50)…御在所岳(10:40-11:00)…武平峠(12:15-12:40)…鎌ヶ岳(13:50-14:00)…武平峠(15:20-15:30)…三交湯の山温泉バス停(17:00)

3/12 西藤原駅(8:10)…五合目(9:30-9:35)…標高960m(11:20-11:30)…西藤原駅(14:05)

いたが、何かを勘違いして時間設定をしてしまったようだ。それでも、普段からウォーキングをしている人が多いので、予定どおり歩きはじめる。



Yさんが遅れはじめるが、急ぐ旅ではないので、信号や広いところで待ちながら、のんびり歩く。しかし、腰の具合が良くないようで、一緒に歩いていたIさんからちょうど来たタクシーに乗って引き返すとの電話が入る。ここまで来て、もったいないので、タクシーで東口まで行って待っていませんかというが、かなり腰

が痛いようで、そのまま帰ることにするという。

Iさん、Yさんと別れ、本隊は、公園の東口を目指す。長い車道歩きを終え、東口に着くと、マジックショーをしていた。ここで休憩した後、青竜ヶ岳方面に向けて、木道を歩く。湿性植物園付近で、フクジュソウを発見。まだつぼみもあり、これからももう少し楽しめそうだ。

長い階段の道に入り、衣類調整を行う。この階段はかなり長く続き、一旦平坦になった後、斜面をトラバース気味に進む。青竜ヶ岳への分岐に着いたが、時間が遅れていることと、かなり疲れの出してきた方もいたので、青竜ヶ岳へは向かわず、西口に下りて昼食とする。かなり長い下りだったが、順調に下りて、西口のフラワートレインの待合所でお昼を食べる。



三轟山山頂にて

昼食後は、万葉庭園の手前から直接頂上広場方面に向かう登り道を進む。上部に行くと、カタクリの葉が現れてきた。つぼみもいくつかあった。

頂上広場に向かう道と東口に下りる道との分岐で、カタクリの花を探したいので、東口方面に下ることにするが、Sさんは、先に頂上広場に行って待っているという。

東口近くでセツブンソウの花を発見する。その後、カタクリの園に上がってみるが、カタク

リはまだつぼみばかりで咲いているものを見つけれなかった。アズマイチゲも天気の良いせいか花が開いていなかった。



セツブンソウ

ここからきつい登りをがんばり、少し下ったところが頂上広場だった。Sさんと合流し、山頂で写真を撮って、先を急ぐ。この頃から雨が降りだしてきた。みんな疲れが出てきているので、山道を止め、フラワートレインのコースを歩く。琴平神社や要塞のような富士見台を過ぎ、わんぱく広場の下っていく。広場からは、フラワートレインの通る脇を歩いて南口に向かう。

南口付近に咲いているというユキワリソウは、残念ながら見つけれなかった。

南口に着くと、さすがにきた時の長い車道を歩く気にはなれず、タクシーを呼んで、静和駅に向かった。計画に不備があったり、予想外にアップダウンの多い三轟山でしたが、参加されたみなさまのご協力が無事に終えることができたことを感謝申し上げます。

コースタイム

静和駅(9:40) … みかも山公園東口(11:15-11:35) … 西口(12:35-13:05) … 山頂(14:20-14:30) … 南口(15:20)

★北高尾山稜(3月25日)

参加者 会員(障害児1名、健常者7名)

金曜日、土曜日と続いた雨が上がり、今日は良い天気に恵まれた。昨年、計画した北高尾山

稜が、関場峠から下りることになったため、峠から八王子の城山まで歩いて、山稜の縦走を完了させたいと思い、今回計画した。

日影でバスを降り、少し日影沢林道を見に行くが、まだアズマイチゲの花が下を向いてたれている程度で、ほとんど花がなかった。



エナガ

すぐに戻り、小下沢に向かう。梅林の梅はまだ3分咲き程度だった。関場峠まで1時間40分かかる長い林道なので、花を探しながら歩く。道端にカメラを向けている人がいたので、レンズの先を見ると小さなアオイスミレが咲いていた。景信山方面に登る登山道と北高尾山稜に登る登山道と、四差路になった分岐の水場には、お目当てのハナネコノメが咲いていた。開花してから数日たって匂を少し過ぎている花だったが、近づいてみるとやはり雄しべの赤が美しい。近くにはコリワサビも咲いていた。子どもたちは、靴を脱いで沢に入って遊んでいる。



ハナネコノメ

長い林道は、Y君にとってかなり退屈だったようで、落ちていた木の枝を持ち歩いてなかなか歩かない。この調子では、最後まで歩けない

かも知れないなと思い、エスケープルートも考えておく。林道脇の沢に下りてみると、まだこれから咲こうとしているハナネコノメがたくさんあった。



林道を手をつないで歩く子どもたちとYさん

ようやく空が近づき、林道が終わって、関場峠に上がった。子どもたちはシャリバテ気味なのではないかと思い、ここで昼食タイムにする。天気はとても良いが、ここは風が強く、じっとしていると寒いので、上着を着る。

昼食後、子どもたちは一気に元気になった。非常にアップダウンの多いコースだが、子どもたちは元気に登る。下りは、危険なため、手をつないで下る。葉を落とした木々の向こうには、大岳山がよく見える。その左手にあるのは、御前山だろうか？ 尾根に上がって展望が良くなってきた。

黒ドッケと呼ばれる夕やけ小やけふれあいの里分岐を過ぎ、徐々に下っていく。ピークを越えると、またその次ぎに小さなピークが現れることの繰り返し。やっぱりCコースだという声が聞こえる。しかし、子どもたちは、林道での心配が嘘のように至って元気だ。大人が付いていくのに骨が折れるくらいのハイペース。将来が楽しみな子どもたちだ。

途中で、PさんがY君に、昔あのねのねが歌っていた「でんでん虫の唄」を教えている。歌の好きなY君なので、すぐに覚えるだろう。

小下沢に下りる分岐があったが、もうエスケープの必要はないので、予定どおりのコースを進む。ただ、アップダウンが多いので、大人の

方が心配になるくらいだった。

左に林道を見て、ピークに登る。さらに下って、また登る。杉沢の頭に15時前に到着。予定時間より少し早い。次の富士見台からは、真っ白に輝く富士山が見えた。ここで大きく左に折れ、城山へと向かう。



トラバース気味の道が多く、子どもたちと手をつないで、慎重に通過する。城山の手前に、手漕ぎポンプがあった。子どもたちは、こんなポンプを見るのははじめてではないだろうか？ 一所懸命に漕いで、おいしい水を出していた。

★リーダー養成コース（五竜岳～唐松岳）（4月28日～30日）

参加者 会員(健常者4名)

1. 遠見尾根は、3か所ほど痩せ尾根の箇所があるが、アイゼンを付けずに五竜山荘まで登った。
2. 白岳の登りは、雪崩に要注意。白岳に登らず、五竜山荘にトラバースできるが、雪の緩んでいる時間帯は白岳山頂に登った方が無難なため、今回は山頂に登った。
3. 五竜岳は、山頂直下までトラバースが続くが、滑落に要注意。今回は、ロープをつなぎ合って往復した。
4. 五竜岳山頂直下の雪壁は、登りは問題なく、下りも後ろ向きで下りれば問題はなし。
5. 五竜山荘から大黒岳までは、ほぼ問題のな

城山からは、素晴らしい展望が広がる。新宿副都心の高層ビル群の左手には東京スカイツリーも見えた。城山までは多くのハイカーが来るので、道は広く、良く整備されている。最後の階段を下りると、駐車場があった。ここから車道を歩いて、霊園前のバス停に向かう。

子どもたちは、林道ではグズグズしていたけど、山道になったらすごく元気になって、最後までがんばりました。シャリバテも少しあると思いますが、単調な歩きに、飽きたのでしょうか。ただ、さすがに最後は、疲れたとKちゃんが言っていたのが印象的でした。

コースタイム

日影(9:00)…景信山分岐(9:55-10:10)…関場峠(11:30-12:00)…タヤけ小やけふれあいの里分岐(13:10)…小下沢林道分岐(13:50)…杉沢の頭(14:45-14:50)…城山(15:40-15:50)…城山駐車場(16:25)…霊園前(16:45)

い稜線が続く。

6. 牛首までの登りは、黒部側をトラバースしながら登る箇所が多いが、岩稜が続く、転落、滑落には細心の注意を払う必要がある。特にアイゼンを付けての岩稜歩きになるため、アイゼンをひっかけないように注意が必要。
7. 唐松岳の登り下りは、特に問題ないが、滑落すると止まらないため、気を抜いて滑落しないよう注意が必要。
8. 八方尾根は、上部が少し細い尾根のため、注意が必要。下部は広い尾根のため、悪天時は間違っても別の尾根に下らないよう、注意が必要。上の樺、下の樺付近でグリセードを楽しんだ。唐松岳頂上小屋から八方池までの間に4羽のライチョウに出会った。

カヤクグリもたくさん見つけた。



《参加者の感想》

前半は天候にも恵まれ最終日は雷鳥三昧で充実の三日間でした。



一方で大変体力が必要なコースで天候が悪くトレースがなければ到底全行程を歩くことはできないだろうと感じました。

全体を通してアイゼンワークやロープワークの練習がたっぷりとできました。

特に岩場をアイゼンで歩いた時にはできる範囲で前爪だけに乗って登ってみようと思い何度かチャレンジすることができました。ロープを確保する場所がない雪上斜面でアンザイレンしながら後ろ向きに降りるやり方は初めての経験でしたが大変勉強になりました。

＜今回の山行で注意した点＞

- アイゼン歩行の基本は、爪全部が斜面に刺さるよう、足首や膝を曲げて足の裏全体で踏み付けて歩く。アイゼンの一部しか接していない状態は滑落の原因となるので注

意。

- 進行方向左側が山斜面の場合は左手にピッケルを持ち帰るか両手で斜めに突き刺しながら進む。(バランスをとる)
- 下りでは後継姿勢にならないよう注意。(転倒防止)
- アイゼンをつけたまま岩場を歩く場合、前爪のみで岩に乗る時には岩に対して爪を直角にのせてゆっくり体重移動する。岩に接地している爪の角度が悪いと滑りやすいので注意。
- 雪庇の上に乗らないようなコース取り。

記：M.Yさん



昨年のゴールデンウィークに、唐松岳から見た大きな山容の五竜岳。

今年はその憧れの五竜に登れるまさかのチャンスを得て、技術的にも体力的にも貴重な経験をさせていただいた。



遠見尾根から見える鹿島槍はさすが後立山の盟主、映画の「岳」のようにコーヒーを飲みながらずっと眺めていたいという思いにから

れる。



幾度も通過するナイフリッジの尾根、五竜山頂直下の喘ぐように登る雪壁、牛首までは雪付きの岩場のアイゼン歩行、今、気がつけばピッケルを持つ右手の親指の付け根は内出血で変色している。



五竜小屋で記念にロゴ入りのTシャツを買った。

山がすき 酒がすき そして、仲間が大好き！ ご一緒した皆さん、本当にありがとうございました。 記：T.Uさん

五竜～唐松、積雪時はかねてから行ってみたかったので今回は参加することができてよかったです。

連日天気もよく 2000m の雪の稜線歩きは暑いくらいでした。時折吹く風が気持ちよかったです。遠見尾根の雪の稜線歩きはアップダウンはありましたがその眺望はすばらしかったです。うわさ以上の光景でした。左に鹿島槍と五竜岳、右には白馬連峰がきれいに並んできれ

いでした。リーダーが「鹿島槍は優しさと厳しさ、両方をそなえた山」といったのが思い出されます。

初日の核心部、西遠見から白岳への直登。この日最後の登り、これがわたしには厳しかったことが思い出されます。ステップはできていますがそ



の段差はリーチのないわたしには高すぎて、一歩一歩高く足を上げて登るので息があがってしまいました。一歩一歩、前へというより上へ上へって感じ。空はみえるが稜線になかなかたどりつかない。白岳の稜線にでたときは登りきった満足感でいっぱいでした。

2日目の五竜岳の雪壁も迫力満点。リーダーが出してくれたザイル確保の安心感もあり無事に登頂できました。五竜岳山頂で万歳。今日も快晴。360度のパノラマ。最高でした。五竜から唐松の縦走は雪道や岩場をアイゼンで歩きますが岩場ではつめをひっかけないように気をつけましたが非常に歩きにくく足がだんだんあがらなくなっていました。この日一番どきどきとする場面、鎖が雪に埋まっている、氷と岩のミックス地帯。左下はきれていて、こわくて、足がすくみました。ここを通過しなければ先へ進まないのリーダーの指示どおりに前へ進みました。手が届かない鎖に手をのばしたくなりますがリーダーが「雪をつかめ、雪の中に手をつっこめ」といいます。雪をつかめ？ どうやって雪をつかむのだろう？わたしも必死だったので言われるまま固めの雪に腕を突っ込んだ。リーダーの声がけと確保のおかげで無事に通過できました。

牛首を通過したらまもなく唐松岳小屋がすぐ下に見え、ほっとしました。身軽でそのまま唐松岳山頂へいったら今朝登った五竜岳が目線にあり、やった～という思い万感です。その日のビールは昨夜よりもましておいしくて、このひとときのために今日一日頑張ってきてよかったと思います。富山や三重の方たちとお酒を飲みながら山談義に花がさきました。みなさん明るく素敵な山男さんでした。



3日目は八方へ下山するだけなので気持ちもゆったり。雷鳥にも出会えることもできました。3日間、よい天気にも恵まれラッキーでした。厳しさと優しさの差が大きい分、充実した

★屏風山(5月5日)

参加者 会員(障害者1名、健常者5名)

1. 天気の良くない日が続いたが、今日はすばらしい天気に恵まれた。
2. 関所跡からの登りはじめは急登となり、100mほどの標高差を一気に登った。
3. 樹林帯ばかりで展望はほとんどなし。ただ、木々の間から富士山や駒ヶ岳、二子山が見えた。
4. 新緑とタチツボスミレなどがきれいだった。樹木は、ヒメシャラやアセビ、リョウブなどが多かった。
5. 危険な箇所は特になし。

経験をすることができました。いろんな意味で多くを学ぶことができ、自分に自信をつけることもできました。今回の反省点はスタミナ不足です。これだけの山の3日間の縦走は前もってトレーニングして望まないといけないなと反省ばかりです。みなさんのたくさんの思いやりありがとうございました。記：S.Kさん

コースタイム

- 4/28 白馬五竜スキー場リフト終点(9:00)…中遠見山(10:50-11:00)…大遠見山(12:00-12:20)…五竜山荘(15:00)
- 4/29 五竜山荘(6:20)…五竜岳(8:05-8:30)…五竜山荘(10:05-10:50)…大黒岳手前標高 2,400m(11:45-12:05)…大黒岳(12:30)…唐松岳頂上山荘(15:05-15:15)…唐松岳(15:40-15:50)…唐松岳頂上山荘(16:10)
- 4/30 唐松岳頂上山荘(7:30)…八方池(9:10-9:35)…アルペンクワッドリフト(10:35)

6. 行きのバスは渋滞に巻き込まれ、30分以上遅れたため、帰りは湯本で下車し、電車で帰ってきた。



《参加者の感想》

まことに快適な山行でした。

曇天が続いた週に真っ青な空の日本晴れに

恵まれたのです。

登山のグレードは「A」ということでしたがバスを下り 歩き始めてから間もなく現れた大変な急坂が結構ながく続きました。これが A かと思いつながら屏風山という名前に妙に納得しました(でも名前の由来はこの登りではなくもっとすごい所が他にあるらしい)。これを過ぎた後はなだらかで周りの満開の黄みどりたっぷり楽しめました。

しかし背の高い細竹や木々に視界をはばまれて眺望がよくないのは残念でした。富士山の大きな真っ白な嶺が樹間に見えるのですが絶景とは言い難く・・・。

連休中の芦ノ湖周辺の道路は混雑していたが帰りは予定と反対方向に行くバスに乗り鉄道利用にしたお蔭で順調に小田原に到着。ナイスジャッジでした。 記：S.Mさん



富士山が見えた

今年になって山仲間アルプの山行ないしハイキングに4回申し込み、雨に祟られて3回中止の憂き目に遭う。このゴールデンウィークの中程にあたる5/1~5/3 中禅寺湖畔に2泊でカラオケとハイキングに行ったが、三日間とも雨でハイキングは取り止め。すっかり雨

★長者ヶ岳(5月13日)

参加者 会員(障害者4名、健常者5名)

富士宮駅からジャンボタクシーで田貫湖ま

に取り憑かれていたが、今回の屏風山山行は快晴の天気となり、これまでの憂さも帳消しとなる。

A ランクの山行なので気楽に臨んだが、登り始めるといきなり急勾配、階段状の山道を15分程もハアハア行ってなんでこれが A ランクやとの思いになった。

その後は特に苦勞する所もなく、山道からの見晴らしは良くなかったが、五月晴れの空のもとおいしい空気に包まれてまばゆい新緑の中を快適に歩き下山した。山行はやっぱり天気次第やなあ。

次回の山行も好天であることを祈りたい。

記：A.Sさん



5日はとっても楽しかったです。

最後に川で転びました。すりむいたところは薬を塗っていたのでよくなりました。また、連れて行ってください。 記：M.Sさん

コースタイム

箱根関所跡バス停(10:50)…屏風山(11:50-12:20)…甘酒茶屋(13:35)

で行く。今日はすばらしい天気にも恵まれ、富士山はもちろん、今日登る長者ヶ岳や天子ヶ岳、その向こうには毛無山、天子ヶ岳の左奥には、白い残雪を抱いた南アルプスの山も見えている。



長者ヶ岳への登りで見えた富士山

田貫湖から、整備された尾根に上がる道を登っていく。尾根末端からの道と合流し、杉の植林地帯と雑木林の間の道を登る。新緑がとにかく美しい。ベンチのあるところに着いたら、木の向こうに富士山が見えた。足下には、タチツボスミレやミツバツチグリ、チゴユリ、ツボスミレ、マムシグサ、ホウチャクソウなどが咲いている。おいしそうなゼンマイもあった。

長者ヶ岳の山頂直下には、小さな小さなコケリンドウも咲いていた。長者ヶ岳山頂に着いたが、富士山は雲に隠れてしまい、時々姿を見せる程度になってしまった。しかし、富士山と反対側の西側には、南アルプスの北岳から聖岳まで3000m級の山頂が見えていた。



長者ヶ岳山頂にて

予定よりも1時間早く山頂に着き、昼食後は天子ヶ岳に向かう。足下にはバイケイソウの葉がたくさんあった。ツツジの仲間は、トウゴクミツバツツジだろうか？少し、花が小さく色も濃いように思うのだが？ 天子ヶ岳の手前には、シロヤシオ(ゴヨウツツジ)も咲いていた。また、オニクと思ったおかしな花は、ヤマウツ

ボでした。この稜線では、コゲラやコルリの姿を見ることができた。センダイムシクイやツツドリ、オオルリ、キビタキの声も聞こえていた。

天子ヶ岳は、ここが山頂なの？と思うような、何の変哲もないところで、一番高い場所ではなかったようだ。天子ヶ岳からの下りはなかなか急で、慎重に下った。また、富士市に住む女性が一緒に歩き、会話が弾んでいた。長者ヶ岳は、4月25日頃は、カタクリやアズマイチゲの群生がすばらしいようだ。

ヤマリソウやツツジの花を楽しみながら下り、林道を過ぎ、ようやく車道に出た。ふり返ると、天子ヶ岳と長者ヶ岳が見えていた。最後は、白糸の滝を見て帰ることにする。白糸の滝は、なかなか迫力があって、一見の価値ありだった。今回の山は、グレードCでしたが、変化があってあまり疲れを感じなかったのではないのでしょうか？



シロヤシオ(ゴヨウツツジ)

《参加者の感想》

今回の長者ヶ岳、天子ヶ岳は、久々の山行で富士山も見れて、山頂に着いたら、遠くに冬山の稜線が見れてダブルで最高でした。1日楽しませていただきありがとうございました。

記：S.Yさん

「富岳百景三島編」

千葉方面から東京駅へ向かう電車では、スカイツリーの左足元に富士は小さく鎮座していた。5月の空でこれほど富士山がくっきりと映し出されることも珍しい。それだけでも気分が

いい。

こだまの車内では「車窓の右側に富士山が見えています。どうぞ車窓の景色をお楽しみください」なんていうアナウンスがあったのは、小田原あたりまで来ていたときだろうか。ブラインドの下から覗き見る風景に、東京の葛飾辺りではあんなに小さかった富士が車窓いっぱい広がっていた。こだまから東海道線に乗り換え、三島迄きたときの富士は、右の裾野を愛鷹の峰に隠し、左の裾野だけを長く長くたおやかに広げている。昔から「三島の富士が日本一」と云うらしいが、まことに美しいと感じた。つい知らず「民謡ノーエ節」が口をついて出てきた。「富士の白雪はノーエ、・・・・・・・・三島サイサイ女郎衆はお化粧が長い・・・・」そうだ、たおやかな稜線こそ女郎さんの襟足を思わせるではないか。してみると愛鷹は、和装きもの襟で富士の右肩を半ばほど迄覆っているよ

★天城山(5月27日)

参加者 会員(障害者1名、健常者7名)
会員外(健常者1名)

昨年も一昨年も雨で中止になってしまった天城山でしたが、今年はすばらしい天気恵まれた。これも、天照大神さんの参加のおかげかな？

天城高原ゴルフ場から歩きはじめ、万二郎岳登山口から登りが始まる。周囲は、ヒメシャラとアセビの林。新緑の美しさも申し分ない。ミツバツツジは終わりかけていたが、登るにつれて増えてきた。万二郎岳の山頂が近づくと少し急なところも出てきた。山頂は、展望はほとんどないものの、ミツバツツジがすばらしい。ミツバツツジを眺めながらの昼食タイムとなる。Iさんが、子どもたちを楽しませてあげようと持ってきたダチョウのおもちゃを出して動か

うにも見えてくる。凄い発見だ。三島の富士には色香があるのだ。「田子の浦に 打ち出でてみれば白妙の・・・」と富士を讃えている万葉人も三島の富士に色香を見出していた人がいたのではないだろうか。太宰は、随筆「富岳百景」に三つ峠からの富士を眺め「月見草がよく似合う」といっているが、三島の5月の富士にはあやめが似合うのではないかとしみじみ思う。富士からの連想は尽きない。

ああ、そう、長者ヶ岳の感想でしたか、そう、「山は天気好ければ総て良し」でしょう。

記：T.Yさん

コースタイム

田貫湖(10:00)・・・ベンチ(10:35-10:45)・・・長者ヶ岳(12:05-12:40)・・・天子ヶ岳(13:30-13:40)・・・林道(15:10-15:20)・・・白糸の滝(16:15)

してくれる。本物の鳥が動いているようで、Iさんの多芸に驚かされる。



ヒメシャラとアセビの林を登る

万二郎岳の山頂を少し下ると、展望の良い岩場に到着する。これから登る馬ノ背と万三郎岳がよく見える。馬ノ背は、ところどころにミツバツツジのピンクがあって、とても美しい。東伊豆方面の海岸線も見えていた。

馬ノ背を過ぎ、石楠立を過ぎると、いよいよシャクナゲの登場だ。次々に現れて楽しませてくれる。白いシャクナゲもあった。天城山は足

下に咲く花はあまりないが、樹木の花がすばらしい山だ。



万二郎岳山頂のミツバツツジ

万三郎岳には、大勢の登山者がいた。旅行会社の26人さんも登ってきて、大にぎわいになった。100名山であり、一等三角点でもある万三郎岳の山頂は早々に後にして、下山にかかる。下山路もミツバツツジがすばらしかった。

新緑の林には、オオルリやキビタキ、コルリ、ミソサザイなどの歌声がひびき、春山の楽しさを一層引き立ててくれる。予定時間に天城高原ゴルフ場に着いたが、バスの待ち時間があつたため、レストハウスで休憩することにした。

アマギシャクナゲとミツバツツジを堪能できた一日でした。みなさま、お疲れさまでした。



満開だったアマギシャクナゲ

《参加者の感想》

天城山に登って

伊豆方面には何十回と足を運んでいるのに、伊豆の山に登るのは初めてである。

天城高原ゴルフ場の登山口から緩やかに30分ほど登って行くと、大きなヒメシヤラの木が登山者を見守っているようで、手でそっと

触れてみる。ひんやりと心地よい冷たさが手のひらから全身に沁み込んでくるように感じた。

万二郎岳(1299m)に近づくにつれ見事にピンク色したアマギシャクナゲやミツバツツジが我々を迎えてくれ思わずシャッターをパチリ、パチリ・・・真っ白なシャクナゲはひときわ美しく凛々しさの中に清純な印象を与えてくれた。



万三郎岳山頂にて

万二郎岳から万三郎岳への道は山の字のごとく、登ったり下ったりだったが頂上から見渡す景色にまたまたパチリ・・・万三郎岳からの下山路では、女性陣の楽しい会話と小鳥たちの囀りを耳にしなが、海からのひんやりした風を受け、陽ざしに映える新緑に何度も立ち止まりながら、何人ものハイカーたちと挨拶を交わし山の楽しさを味わうことができました。



新緑の中を歩く

休憩のたびにいろんな菓子などを頂いたり、おもしろい会話に思わず笑わせてもらったり(登山口に戻ったころには私の膝も結構笑っておりました)、一日中天候に恵まれ本当に楽しい一日でした。ご一緒していただきました

皆様ありがとうございました。また機会がありましたらよろしく願いいたします。

記：H.Mさん

念願の山行で充実した1日でした。天城は花畑でいい気分を過ごせました。 記：S.Yさん

コースタイム

天城高原ゴルフ場(10:30)…万二郎岳(11:55-12:30)…万三郎岳(14:00-14:15)…涸沢分岐(14:55-15:00)…天城高原ゴルフ場(16:30)

雨などの予報のため、神成山、甲斐風土記の丘ふれあいハイキング、新川下流ミニハイキングを中止しました。

講習会報告

★岩登り技術講習会（鷹取山）（4月15日）

参加者 会員(健常者3名)

みものんびりと楽しむ事ができた。



ビギナーフェースを登るSさん

鷹取山で、今年度、最初の岩登り技術講習会を行った。いつものとおり、子不知の南面のカンテと戸田ハング、及びビギナーズフェイスで練習を行った。参加人数が3名で少なく、昼休

《参加者の感想》

昨日迄の雨とは、うって変わって素晴らしい青空の下で、リスの鳴き声を初め、鶯等々小鳥の鳴き声を聞きながら鷹取山のロッククライミングをする事が出来ました。久しぶりのロッククライミングでしたので…不安が有りましたがリードをしていただき楽しくする事が出来ました。桜、すみれ、水仙など咲き、家族連れのアットホームな雰囲気。いろいろな岩壁にそれぞれ楽しんで、講習会や救助練習に、子供たちも共に又国際色豊かにクライミングを楽しんでいました。大勢の方の参加を期待しております。 記：T.Sさん

ハイキング報告

★第30回ふれあいハイキング（久野古墳群）（3月4日）

参加者 会員(障害者4名、健常者13名)
会員外(障害者1名、健常者1名)

今日はどんよりとした曇り空で、肌寒い一日だった。晴れていれば、富士山や箱根の山、丹沢なども見えるはずだが、残念ながら雲に隠れて見えなかった。それでも、梅の花などを見ながら、古墳めぐりを楽しんだ。

足柄駅で全員集合し、駅から歩きはじめる。さきたま風土記の丘に続いて、Kさんも車椅子

で参加した。

まずは玉宝寺の木彫りの五百羅漢を見に行く。本堂の中に設置されているため、中に入らせていただいて、羅漢像の表情などを見る。526体あるそうで、必ず自分に似た羅漢像があるそうだが、何とも言えなかった。

玉宝寺から足柄駅方向に戻り、急な車道を登って高台に上がる。なかなか展望が良く、小田原城が見えた。最初に見られた1号古墳は、もっこりした小さな小山に見える円墳だ。上に登ってみると、国府津方面がよく見える。



みかん畑の中を進む

みかん畑が長く続く、尾根状の高台の上を歩く。箱根方面の低山も雲の下に見える。梅の花も、まだ咲き始めたばかりのようだが、満開のすばらしい木もあった。



15号古墳にて

4号古墳も円墳で、こちらは石室が見えたが、中に入ることはできなかった。次の15号古墳は、発掘調査後に復元する際、天井部分を取り除いたようなので、石室の構造が良く分かる。

ここで、集合写真を撮ることにする。

次は、フラワーガーデンに行くのだが、案内板が分かりにくく、曲がる道を通り過ぎてしまった。どうもおかしいと引き返したら、反対側からだとしっかりと分かる看板が立ててあった。

フラワーガーデンで昼食タイムとし、昼食後は、温室に入ってみた。いろいろなランの花が迎えてくれ、ヒスイカズラというヒスイ色をしためずらしい花も咲いていた。

フラワーガーデンを出て、次は総世寺に向かう。総世寺でソーセージを食べようと思ったが、ソーセージは売っていなかった。代わりに小田原市指定の天然記念物である大きなカヤの木があった。

総世寺からは、坂を下り、久野川を渡る。最後の目的地、敷石住居跡を目指す。畑に付けられた道のように、土の道を電動車椅子の力を発揮して進んでいく。案内も分かりにくく、ちょっと通り過ぎてしまったが、後の方でここにあったよという声を聞き、戻ってみると、6畳ほどの場所に石が敷き詰められ、柵がしてあるだけの場所だった。住居跡と思われていたが、最近の研究で集石墓と呼ばれる中世の墓であるという見方が有力になったらしい。

ここから足柄駅に戻る。途中で小休止を取ったが、後はひたすら駅を目指して歩いていく。

駅に着いて、ホームに出ると、冷たいものがポツポツと落ち始めてきた。肌寒い日でしたが、雨に降られずに歩き通すことができて良かった。お疲れさまでした。

コースタイム

足柄駅(9:50)…玉宝寺(10:00-10:10)…1号古墳(10:35-10:45)…フラワーガーデン(12:00-13:30)…中世集石墓(14:20)…足柄駅(15:40)

その他事業報告

★定期総会開催

5月26日(土)に、八千代市総合生涯学習プラザで第9回定期総会を開催しました。出席は、当日の16名と書面委任34名を含む50名で行われました。(会員外の方1名の参加があり)

議長に余永氏が選任され、全ての議案が承認されました。

詳細は、次回の機関誌と共に送る第9回定期総会議事録を参照ください。

また、総会終了後、今回、初の試みとして、

ピアノ演奏とフルート演奏、オカリナ演奏を行い、最後にみんなで歌を歌いました。



総会終了後のピアノ演奏会

☆第13回視覚障害者全国交流登山京都大会への参加

13回目となる「視覚障害者全国交流登山」は、京都山の子会主催で、京都市野外活動施設「花背山の家」で実施された。参加団体は、主催の京都山の子会を筆頭に、六つ星山の会、NPO法人H・Cかざぐるま、こまくさハイキングクラブ、富山三つ星山の会、山口ささゆり会、新潟あいゆう山の会、歩く会「友遊」、四国ポレポレ山楽会、山ネット、しまね四季の学び舎、そして当法人の12団体となり、京都府山岳連名の協力もいただき、総勢約305人での実施となった。

1日目は、オリエンテーションと開会式だけとなり、他の会の方々と交流を行った。

2日目は、AコースからCコースの3つに分かれての登山となる。当法人は、BコースとCコースに参加した。各コースの報告は、下記の通り。登山終了後、代表者会議があり、次回14回目は、当法人が主催することになり、場所は、福島県の会津磐梯山周辺を考えていることをお知らせした。

夕食後、親睦交流会があり、京都弁の意味を当てるクイズや、演奏が披露された。

3日目は、閉会式を行い、10時に会場を後にした。



会場の花背山の家にて
(高知のポレポレ山楽会の方と)

《各コースの報告》

【Bコース】

4月7日、今日は比叡山に登る日。朝5時半に目が覚め、カーテンを開けてびっくり。花背山の家は、一面の雪景色。今日の登山の心配をする。ここは標高約600mの山の中。特に寒い所の様で、今日登る比叡山は大丈夫との事。よかった。

修学院離宮道で夜行組と合流。Bコース65名の内、アルプは11名の参加。頼もしい京都府山岳会のリーダーの下、2班は出発。

京都市内は桜の見頃なのに、登山道は気温5度。霜柱もあり、まだ冬の景色。コースは危険箇所、段差もなく、アップダウンなし。ただ登りだけの登山道でしたが、しかしこのコースは

平安時代、僧侶、僧兵や朝廷の勅使が通った道で、戦跡地もありました。

展望の良い所からは、霞がかかった京都市街、そして琵琶湖や雪の伊吹山も見えました。

比叡山山頂は、小高い茂みの中に、一等三角点848.3mを頂上とするそうです。この山は、日本三百名山に名をつらねているのに、頂上に登った感激もなく、ただ三角点のタッチをして、早々に下山してしまいました。

Bコースは急坂、健脚向きとの事前の案内で、心しておりました。11名同じ2班と云う事もあって、気持ちも軽く、サポートもいつものアルプの山行ムードで行う事が出来ました。全員登頂おめでとうございます。記：K.Nさん



【Cコース】

寒かったですね？ 比叡山の春はまだ浅く、下界の陽気に慣れた軟弱の体には新米の修行僧のように厳しく感じられました。

「桜の季節に京都へおこしやす」の企画も加茂川の水と双六の賽のように、京都山の子会の皆様のご苦勞が偲ばれました。

私達はCコースで八瀬からケーブルに乗ります。ケーブル待ちの間、山口ささゆり会の方とお国自慢の花が咲きました。急勾配をケーブルで登山口へ。班の人数確認をしてトイレタイム。また人数確認をし、やっと出発したかと思ったらストップが掛る。何故歩かないの？これが電車だったらすぐに車内放送があって状況が解るのにな？と思いながら暫く立ちんぼ。粉雪混じりの風が身体を冷やして行く。

どうやら具合の悪い人が出たようで、同じ山の会の2人が付き添いロープウェイで山頂に向かうとか。その段取りや本部への連絡で手間取ったらしい。またまた人数確認をしてようやく出発。数分歩いて、身体が温まらないのに休憩。ここは眼下に京都の街、目を上げれば穏やかな山並みが広がっている。

山の子会の方達が説明して下さるのですが、近くにいる人だけに聞こえる。整列して人数確認し出発。

延暦寺は東塔（とうとう）西塔（さいとう）横川（よかわ）の地域からなり、西塔の釈迦堂に向って歩き出しました。

「早い！早い！スピード違反やで？」と先頭の班に叫んでいる。私には早いとは思えず、つい前を行く班の人に混ざって歩いていると注意を受けた。

「親鸞聖人ご修業の地」を通り、弁慶が担いだと言われる渡り廊下の「にない堂」をくぐり釈迦堂へ。さすがに歴史を感じる。拝観して待ちに待ったランチタイムもあつという間に経ち、記念撮影をして出発。

「とうとう来たぞ東塔」駄洒落を聞きながら阿弥陀堂へ。赤い社が鮮やかに目に映る。ここでは水金窟の音色を楽しみました。心に濁りのある人には聞こえないらしい。

いよいよ延暦寺の総本堂、根本中堂へ。靴を脱いで回廊を渡り本堂の中へ入るとお坊様の法話を聞く事が出来ました。電気カーペットの上に座ると寒さからの緊張感が解けてコックリ、コックリしそうになる。

外に出ると世界平和、国家安泰、皇室の安寧を祈願する「御修法」があるようで美しい袈裟を纏った高僧の行列が見られた。列は根本中堂に入って行かれる。最後に菊の御紋を付けた黒塗りの車が続いた。

駐車場に行くとBコースのアルプの仲間達と会ってご挨拶。バスで比叡山駐車場へ。車窓から見える琵琶湖が輝いて綺麗です。駐車場か

ら山頂までは15分位に感じられました。

比叡山山頂と言っても小高い丘のようで、一等三角点の周りを廻って下山。バスに乗り込み花背山の家へ無事戻りました。

視覚障害者全国交流登山大会には初めての参加でしたか、山の会、班ごとに並んで歩くだけで、もう少し色々な方と交流が出来たらな？と思いました。また、立ち止まっての人数確認が多く、歩くスピードもゆっくりでした。

一番歩行距離の短いコースを選んだ私達や障害を持つ方達を思っただけの事でしょうが、山の

会ですから歩くのは慣れているので、もう少し早ければ各地を楽しめたのにと思いました。でもプロのツアーコンでは無いのですから、数百人をまとめた山歩きは事故が無いようにこの大事を取る事を優先されたのでしょう。

延暦寺のお坊様の「毎日の生活を一生懸命に生きる事が仏の道に繋がる」のお言葉が胸に響いた良い山行でした。お世話頂いた京都山の子会の皆様ありがとうございました。

記：J.Iさん

☆第4回活動紹介映写会を開催しました

今年で4回目となる活動紹介映写会を八千代市総合生涯学習プラザで実施しました。

広報やちよ、八千代よみうり、やちよ市民活動サポートセンター、八千代台東南公民館、八千代緑が丘公民館、村上公民館、八千代市総合生涯学習プラザなどを通じて広報を行い、会員以外の方の参加は8人でした。会員の方は13人の参加でした。

映写会では、2011年度に実施した「共に楽しむ登山」で行った大持山・小持山、雲

ノ平、蓼科山、第5回目の「自然と親しむ子ども山登り教室」で行った全ての山のビデオと、2011年に撮影した写真のスライドショーを上映しました。

また、山仲間アルプの趣旨や事業内容と、「第6回自然と親しむ子ども山登り教室」の内容などをパワーポイントを使って説明しました。

会員以外の方にアンケートをお願いし、その結果は、下記の通りです。

1. 映写会の案内がある以前にNPO法人山仲間アルプをご存じでしたか？
 - a. 良く知っていた 4
 - b. 名前だけは知っていた 2
 - c. 全く知らなかった 0
2. お住まいはどちらですか？
 - a. 八千代市内 5
 - b. 佐倉市 0
 - c. その他千葉県内 1
 - d. その他の県 0
3. 今回の映写会があることを何で知りましたか？
 - a. 広報やちよ 2
 - b. 八千代よみうり（または佐倉よみうり、北総よみうり） 0
 - c. 八千代市総合生涯学習プラザ内のチラシ 0
 - d. やちよ市民活動センターのホームページ 1
 - e. 知人からの紹介 3
 - f. ホームページ 0

g. その他 0

4. 本日の映写会に参加されて、山仲間アルプの活動内容をご理解いただけましたでしょうか？

- a. 良く分かった 5 b. 何となく分かった 1
c. 良く分からなかった 0

【理由】（自由記述）

- ・ 山仲間アルプの活動が良く分かりました。楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ どんな立場でも参加ができることを知り、良いグループであると思いました。
- ・ たまに参加させていただいて、とても良かったです。
- ・ 土日には必ず山へ行ったりハイキングをされているんだと実感しました。子どもはどんな山もちよいちよい登るんですね。体が軽いからかな？ うらやましい。
- ・ 写真や映像での報告だったので、ありのままの姿が分かり、分かりやすかった。

5. 山仲間アルプの活動をどのようにお感じになりましたか？（自由記述）

- ・ すばらしいと感じました。すぐに考えてみたいと思いましたが、高齢であることが少々心配ですが、山は大好き。視覚障害者といろいろ楽しんでいるので、興味を持ちました。
- ・ すばらしい。
- ・ どんな方も山に登ることができるんだと思いました。すばらしい活動です。
- ・ 幅広い年代の方が、共に山登りしているのが、すごいと思いました。体力的にも差があって大変だろうなとも思いました。

各種連絡事項

☆参加同意書提出のお願い

前回の機関誌送付と共にお願いした参加同意書ですが、まだ提出されていない方もいます。趣旨をご理解いただき、早めにご提出をお願い

します。できるだけ、今年度の登山にはじめて参加される前にご提出ください。

▲東北の被災地の子どもたちとの登山について

トレッキングシューズ寄贈にともなって、みなさまからいただいた寄付金額は、333,750円になりました。ご協力に感謝申し上げます。

被災地の子どもたちとの登山は、秋田駒ヶ岳、月山、船形山を計画していますが、相澤氏のご尽力により、『船形山を守る会』から共催や協力をいただき、石巻市教育委員会から後援をいただいて、石巻市の小学校（門脇、湊、湊二、渡波、鹿妻、石巻、住吉、大街道、釜）に

参加募集チラシを送りましたが、現在まで2名の子どもから申込がありました。さらに中学校（石巻、住吉、門脇）にも送って参加を募っている状態です。その他、A I氏とYM氏からも協力をいただき、いろんな形で参加者を募っています。YM氏の働きかけにより、河北新報に参加募集記事を掲載していただけることになりました。A I氏の働きかけによりボーイスカウトにも声を掛けさせていただいています。

状況によっては、対象とする山の変更なども考えますが、締切が迫っていることもあり、なかなか良い知恵が浮かびません。良い知恵がありましたら、ぜひご教示ください。

なお、現在、シューズの在庫は、男性用だけ

ですが、26.5 cmが6足、27 cmが4足、28 cmが9足となっています。お知り合いの方などで欲しい方がいましたら、お勧めください。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

3月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。(敬称略)

未成年会員

2名

●退会のお知らせ

残念ですが、下記の方が退会(休会)されました。

14名

編集後記

・理事長のつぶやき

定期総会でも会員数が増える良い方法がないか話し合いましたが、なかなか良い方法が見つかりません。今回、餘永(光)理事が中心となって、会員のみなさまにアンケートを実施し、

より良い方向を目指すことで、理事の考えも一致しました。ぜひこの機会に、みなさまのご意見や知恵を出していただいて、当法人の活動を活性化していきましょう。

・次回発行予定は、9月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208

NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝

TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ!!

